

9月19日～10月5日まで7～9月期（第Ⅲ期）景況調査を実施し、前回より24社多い297社より回答がありました。11月21日に開催した政策委員会では、大貝氏の分析結果をもとに景況を意見交換しました。

9月6日に発生した北海道胆振東部地震は、支部会員各社にも直接・間接の被害をもたらし、その影響が回答結果に表れています。震災直前の台風21号被害も重なり、「業界の状況」「業況判断」「売上高」「収益状況」が大きく悪化。特に建設業、製造業、流通商業の悪化度合いが高くなりました。次期10～12月期は一転して改善の見通しが強くなっていますが、業種毎のばらつきも見られます。政策委員会では「災害への備えの重要性を認識させられた」「建設業界は、災害関連の工事で依然多忙。顧客の困りごとに応える大切さを実感」「風評被害もあり、土地の引き合いが激減」「印刷用紙の値上げによる影響が気になり」「天候不順に台風被害も重なり、農作物の作況も悪化」との報告もありました。

「自由記述」欄には、生の声が多数寄せられました。各社のご協力に感謝いたします。

一般社団法人北海道中小企業家同友会札幌支部 政策委員会

北海道中小企業家同友会札幌支部

2018/10/21

大貝健二

[ogai@econ.hokkai-s-u.ac.jp](mailto:ogai@econ.hokkai-s-u.ac.jp)

## 2018年7-9月期（第Ⅲ期）景況調査の動向

### 1. 回答企業数

・全体で297社（建設業：71、製造業：41、流通商業：53、サービス業：129、農業：3）

→回答企業数の内訳に関しては、参考資料を参照。

※業種別動向において、農業は回答企業数が3社であるため除外している。しかし、全体把握には入れている

### 2. 全体の概要

#### ○【業界の状況】全体では、9.3Ptの悪化（▲5.1→▲14.5）

《業種別動向》全業種で悪化している。悪化幅が大きいのは建設業と製造業

建設業：13.3Ptの大幅な悪化（13.3→0.0） 製造業：12.6Ptの大幅な悪化（▲11.8→▲24.4）

流通商業：9.6Ptの悪化（▲30.0→▲39.6） サービス業：6.8Ptの悪化（▲0.9→▲7.8）

→次期見通しは、サービス業を除いて改善見通し。特に建設業、製造業で改善幅が大きい。

#### ○【業況判断】全体で9.9Ptの悪化（9.5→▲0.3）

《業種別動向》全業種で悪化。特にサービス業以外では、10ポイント以上の大幅な悪化

建設業：18.8Ptの大幅な悪化（21.7→2.8）、製造業：17.6Ptの大幅な悪化（2.9→▲14.6）

流通商業：15.8Ptの大幅な悪化（12.0→▲3.8）、サービス業：ほぼ横ばい推移（4.7→3.9）

→次期見通し：全業種で改善見通し。特に製造業以外では、大幅な改善見通し。

○ **【売上高】** 全体で 11.5Pt の大幅悪化 (13.2→1.7)

《業種別動向》 全業種で悪化。サービス業以外の業種で 10 ポイント以上の大幅な悪化を示す

建設業：13.0Pt の大幅な悪化 (20.0→7.0)、製造業：26.4Pt の大幅な悪化 (11.8→▲14.6)

流通商業：16.3Pt の大幅な悪化 (22.0→5.7)、サービス業：6.0Pt の悪化 (7.5→1.5)

→次期見通し：建設業とサービス業ではほぼ横ばい推移見通し。製造業で大幅な改善見通し

○ **【収益状況】** 全体で 8.6Pt の悪化 (2.2→▲6.4)、

《業種別動向》 製造業のみ「やや改善」のほかは悪化。流通商業で大幅な悪化

建設業：7.0Pt の悪化 (0.0→▲7.0)、製造業：1.6Pt のやや改善 (▲23.5→▲22.0)

流通商業：24.8Pt の大幅な悪化 (4.0→▲20.8)、サービス業：6.5Pt の悪化 (10.4→3.9)

→次期見通し：サービス業を除いて大幅な改善見通し

○ **【仕入価格】** 全体で 1.8Pt 上昇、建設業、製造業での上昇幅が大きい

建設業：15.2Pt の大幅な上昇 (38.3→53.5)、製造業：16.9Pt の大幅な上昇 (44.1→61.0)

流通商業：1.4Pt のやや上昇 (42.0→43.4)、サービス業：6.7Pt の低下 (24.5→17.8)

→次期見通し：全業種で低下見通し。特に建設業、流通商業で大幅な低下見通し

○ **【販売価格】** 全体ではほぼ横ばい。建設業で大幅な上昇、流通商業で大幅な低下

建設業：13.4Pt の大幅な上昇 (13.3→26.8)、製造業：9.8Pt の低下 (0.0→▲9.8)

流通商業：12.9Pt の大幅な低下 (28.0→15.1)、サービス業：ほぼ横ばい (5.7→6.2)

→次期見通し：製造業で変化がない以外は、やや低下見通し

○ **【取引条件】** 全体で 2.2Pt のやや悪化、業種別にみると、製造業、サービス業で悪化

建設業：2.0Pt のやや好転 (5.0→7.0)、製造業：6.8Pt の悪化 (▲2.9→▲9.8)

流通商業：ほぼ横ばい (▲2.0→▲1.9)、サービス業：5.7Pt の悪化 (5.7→0.0)

→次期見通し：全体ではほぼ横ばい、建設業でやや悪化見通し。

○ **【従業員の過不足】**：今期も不足感は 60% を上回る。

建設業▲70 以下を維持、流通商業で大幅な改善

○ **【資金繰りの状況】**：前回調査から大きな変化はない。

業種別では、製造業の改善、流通商業のやや悪化

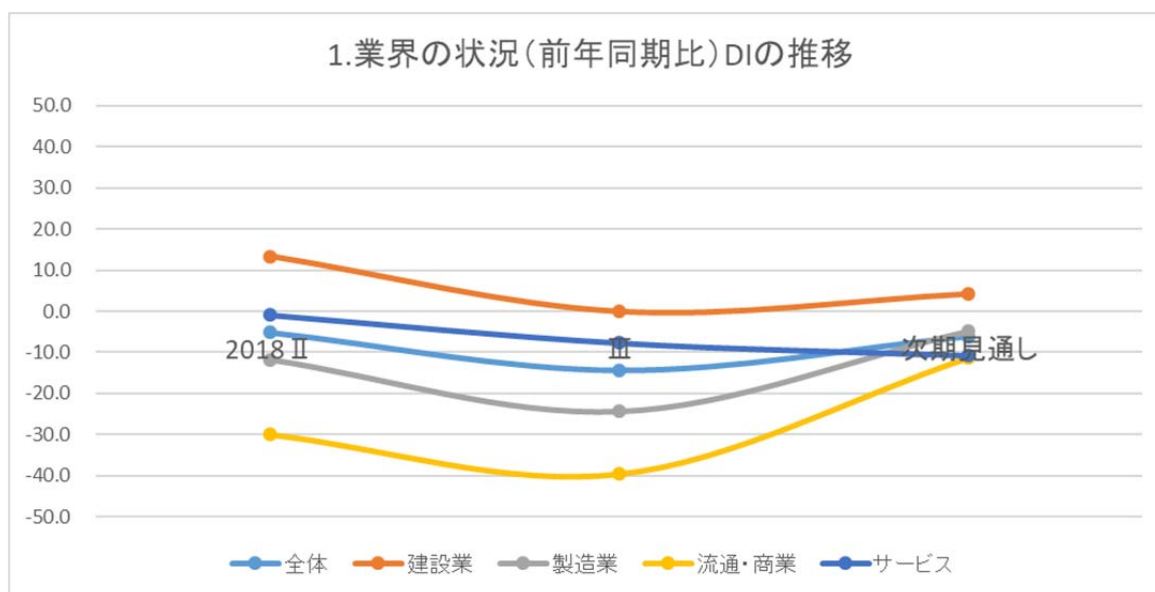
○ **【設備の過不足】**：全体では適正感が広がる

製造業の不足感は 10Pt 以上改善 (とはいえ▲36.6)、流通商業ではほぼ横ばい推移 (▲22.6)

【参考資料】

回答企業内訳

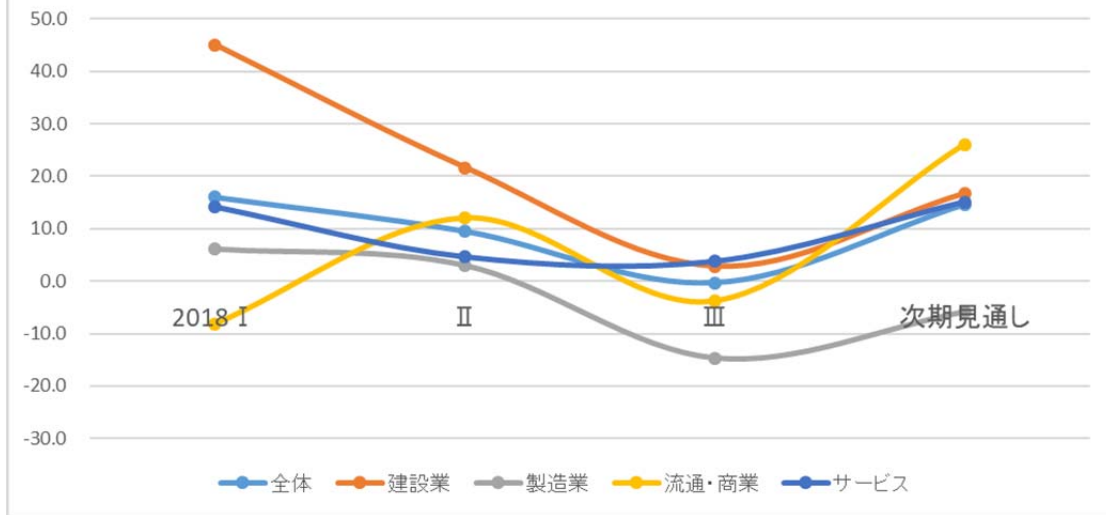
	2018 I	II	III
全体	206	273	297
建設業	40	60	71
製造業	33	34	41
流通・商業	37	50	53
サービス	92	106	129
農業	4	2	3
業種不明	0	21	0
全体	206	273	297
中央東	14	18	17
中央西	30	32	35
中央南	7	6	15
中央北	18	6	15
東	31	27	50
西・手稲	14	19	28
南	3	5	6
北	20	18	39
白石・厚別	28	36	35
豊平・清田	17	24	23
千歳・恵庭・北広島・長沼	14	11	20
江別	10	16	14
所属地区会不明	0	55	0



業界の状況(前年同期比)

	2018 II	III	次期見通し	変化幅 (II→III)	変化幅 (III→次期)
全体	-5.1	-14.5	-6.1	-9.3	8.4
建設業	13.3	0.0	4.2	-13.3	4.2
製造業	-11.8	-24.4	-4.9	-12.6	19.5
流通・商業	-30.0	-39.6	-11.3	-9.6	28.3
サービス	-0.9	-7.8	-10.9	-6.8	-3.1

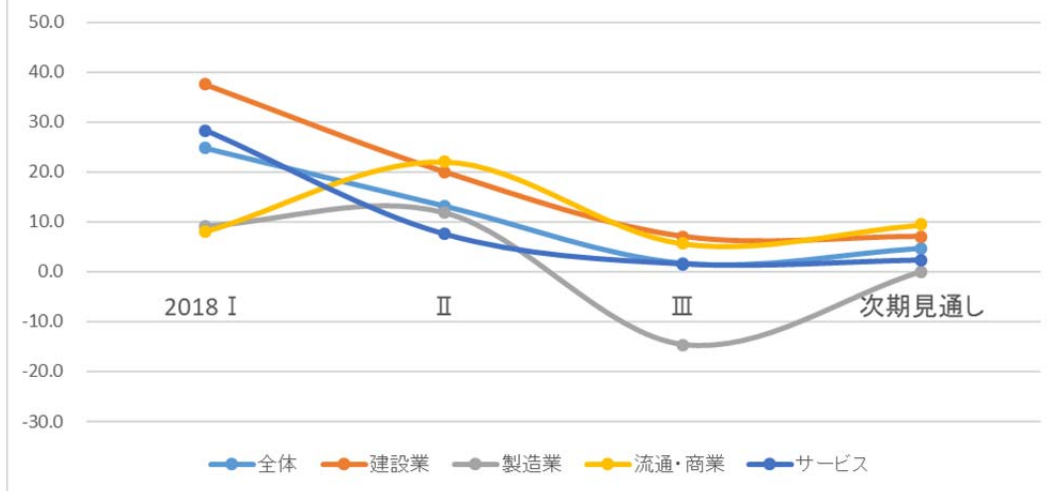
## 2. 業況判断DI(前年同期比)の推移



### 業況判断(前年同期比)

	2018 I	II	III	次期見通し	変化幅 (II→III)	変化幅 (III→次期)
全体	16.0	9.5	-0.3	14.7	-9.9	15.0
建設業	45.0	21.7	2.8	16.7	-18.8	13.8
製造業	6.1	2.9	-14.6	-5.9	-17.6	8.8
流通・商業	-8.1	12.0	-3.8	26.0	-15.8	29.8
サービス	14.1	4.7	3.9	15.1	-0.8	11.2

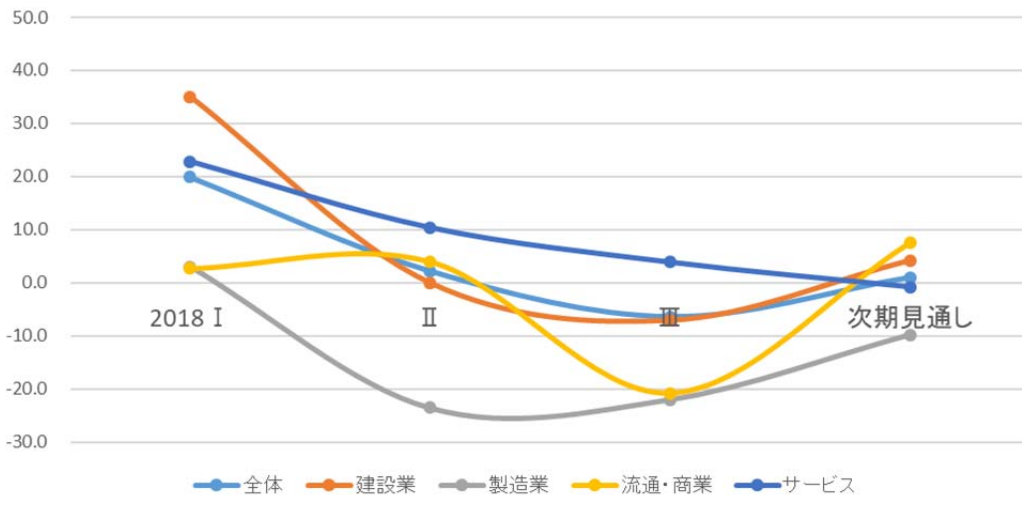
## 3. 売上高DI(前年同期比)の推移



### 売上高(前年同期比)

	2018 I	II	III	次期見通し	変化幅 (II→III)	変化幅 (III→次期)
全体	24.8	13.2	1.7	4.7	-11.5	3.0
建設業	37.5	20.0	7.0	7.0	-13.0	0.0
製造業	9.1	11.8	-14.6	0.0	-26.4	14.6
流通・商業	8.1	22.0	5.7	9.4	-16.3	3.8
サービス	28.3	7.5	1.6	2.3	-6.0	0.8

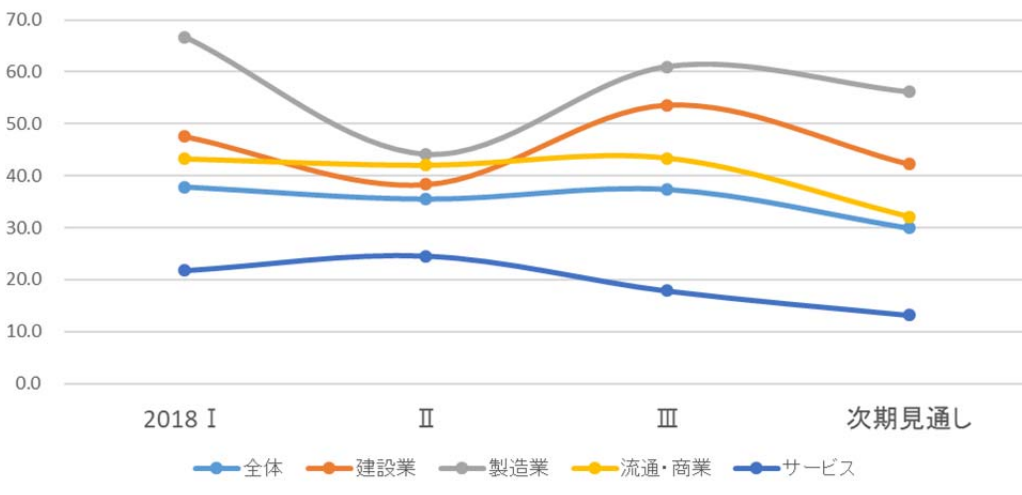
#### 4. 収益状況(前年同期比)DIの推移



#### 収益状況(前年同期比)

	2018 I	II	III	次期見通し	変化幅 (II→III)	変化幅 (III→次期)
全体	19.9	2.2	-6.4	1.0	-8.6	7.4
建設業	35.0	0.0	-7.0	4.2	-7.0	11.3
製造業	3.0	-23.5	-22.0	-9.8	1.6	12.2
流通・商業	2.7	4.0	-20.8	7.5	-24.8	28.3
サービス	22.8	10.4	3.9	-0.8	-6.5	-4.7

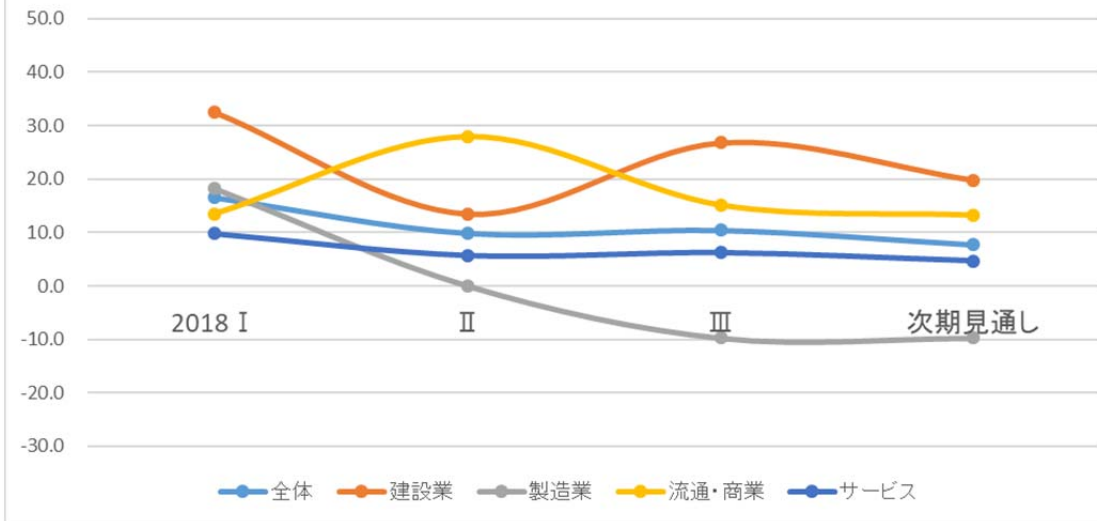
#### 5. 仕入価格(前年同期比)DIの推移



#### 仕入価格(前年同期比)

	2018 I	II	III	次期見通し	変化幅 (II→III)	変化幅 (III→次期)
全体	37.9	35.5	37.4	30.0	1.8	-7.4
建設業	47.5	38.3	53.5	42.3	15.2	-11.3
製造業	66.7	44.1	61.0	56.1	16.9	-4.9
流通・商業	43.2	42.0	43.4	32.1	1.4	-11.3
サービス	21.7	24.5	17.8	13.2	-6.7	-4.7

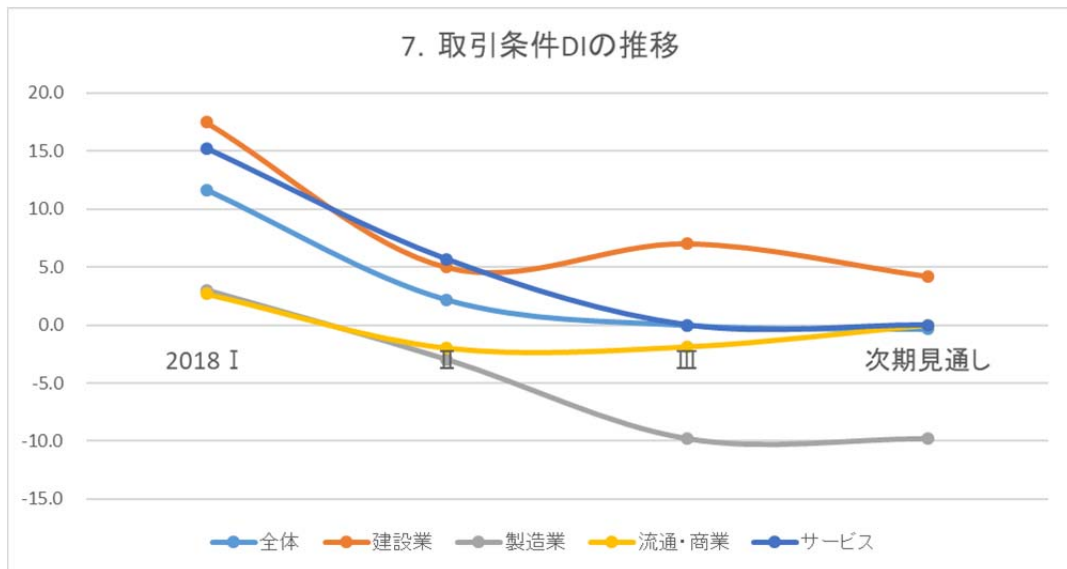
## 6. 販売価格DIの推移



### 販売価格(前年同期比)

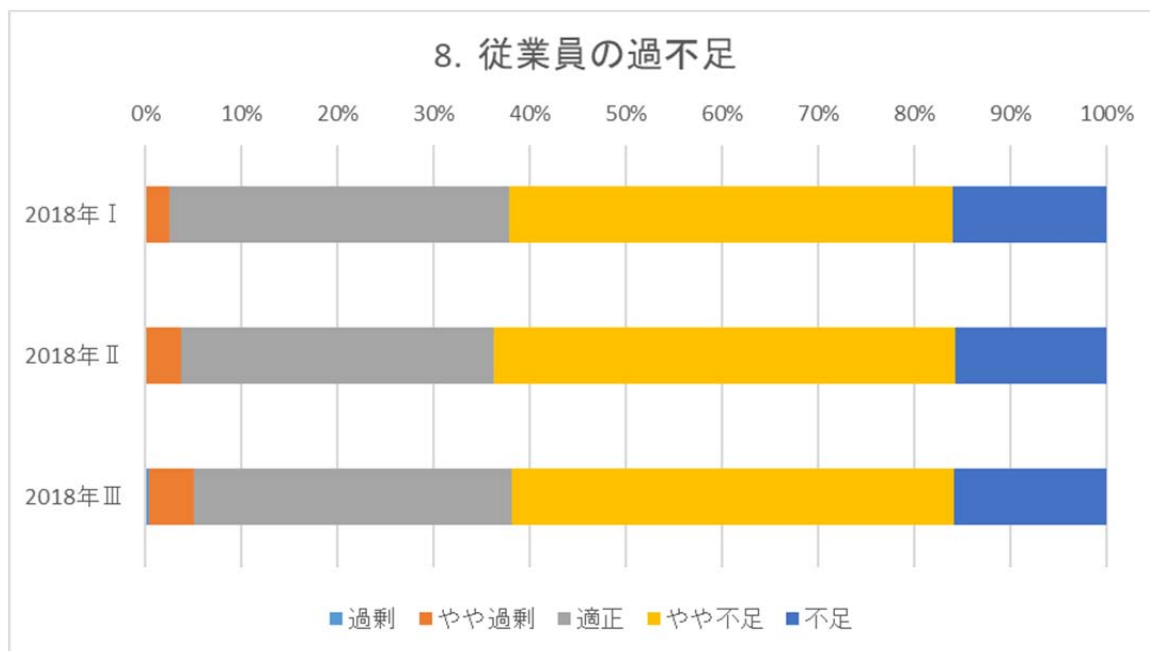
	2018 I	II	III	次期見通し	変化幅 (II→III)	変化幅 (III→次期)
全体	16.5	9.9	10.4	7.7	0.5	-2.7
建設業	32.5	13.3	26.8	19.7	13.4	-7.0
製造業	18.2	0.0	-9.8	-9.8	-9.8	0.0
流通・商業	13.5	28.0	15.1	13.2	-12.9	-1.9
サービス	9.8	5.7	6.2	4.7	0.5	-1.6

## 7. 取引条件DIの推移



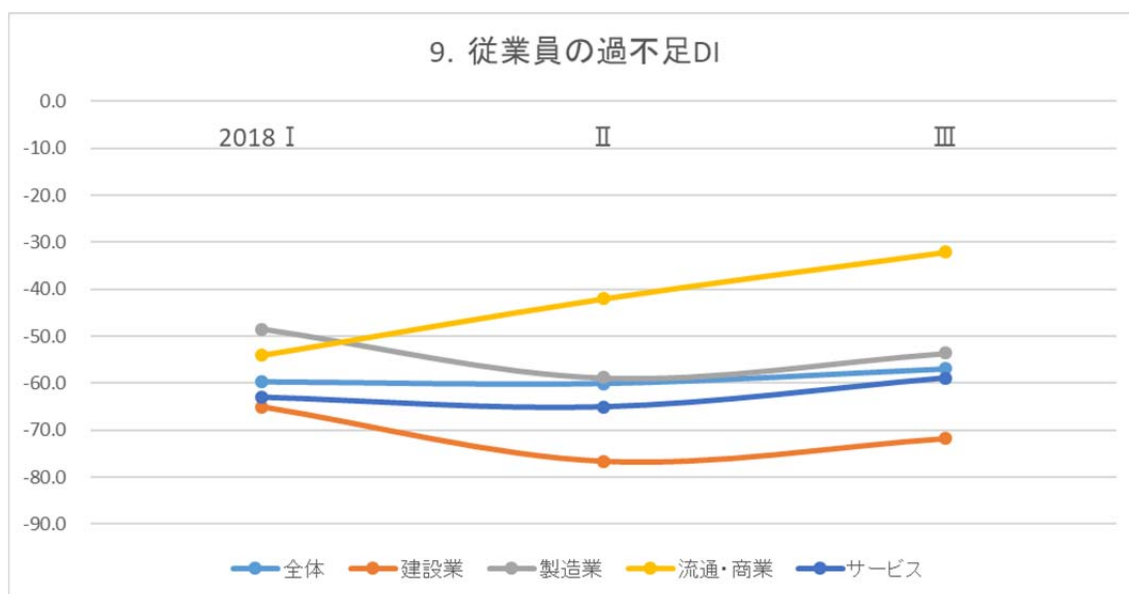
### 取引条件(前年同期比)

	2018 I	II	III	次期見通し	変化幅 (II→III)	変化幅 (III→次期)
全体	11.7	2.2	0.0	-0.3	-2.2	-0.3
建設業	17.5	5.0	7.0	4.2	2.0	-2.8
製造業	3.0	-2.9	-9.8	-9.8	-6.8	0.0
流通・商業	2.7	-2.0	-1.9	0.0	0.1	1.9
サービス	15.2	5.7	0.0	0.0	-5.7	0.0



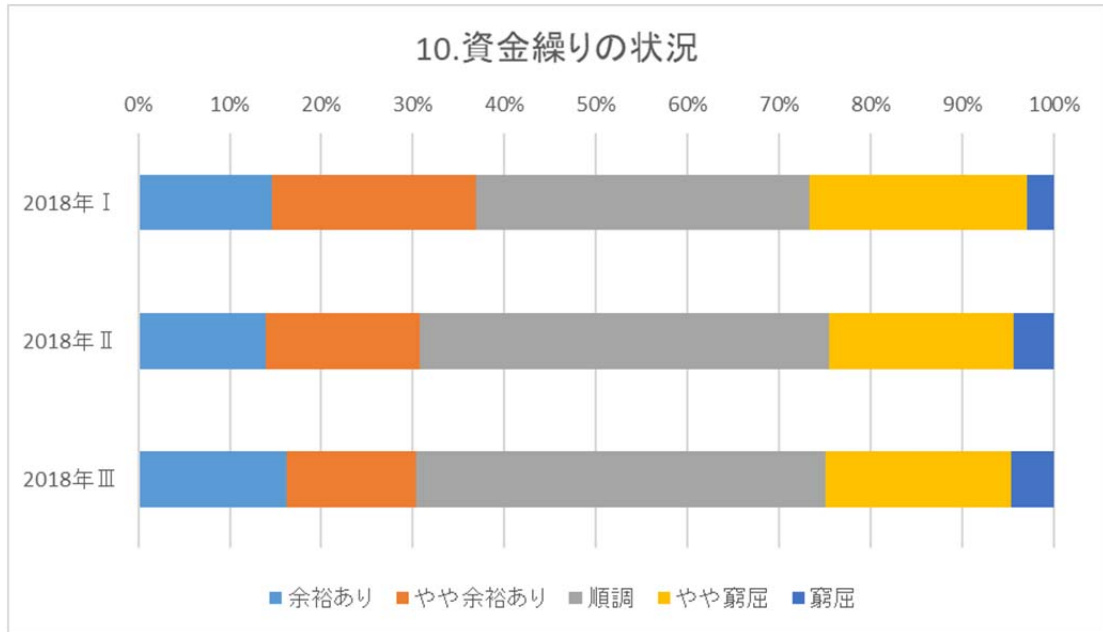
従業員の過不足

	過剰	やや過剰	適正	やや不足	不足
2018年Ⅰ	0.0	2.4	35.4	46.1	16.0
2018年Ⅱ	0.0	3.7	32.6	48.0	15.8
2018年Ⅲ	0.3	4.7	33.0	46.1	15.8



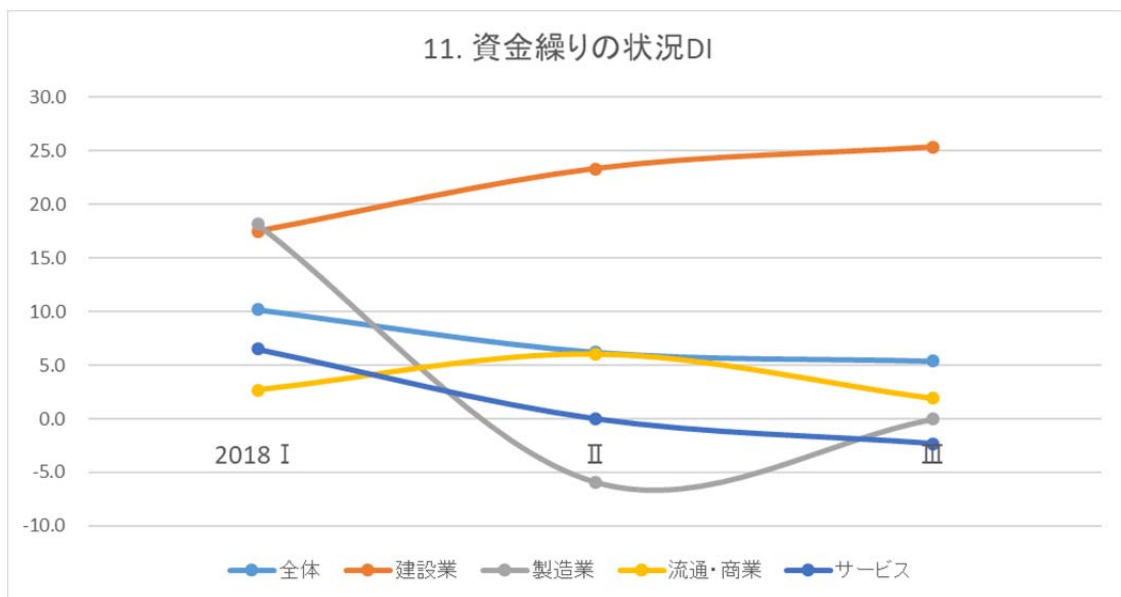
従業員の過不足状況

	2018Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
全体	-59.7	-60.1	-56.9
建設業	-65.0	-76.7	-71.8
製造業	-48.5	-58.8	-53.7
流通・商業	-54.1	-42.0	-32.1
サービス	-63.0	-65.1	-58.9



資金繰りの状況

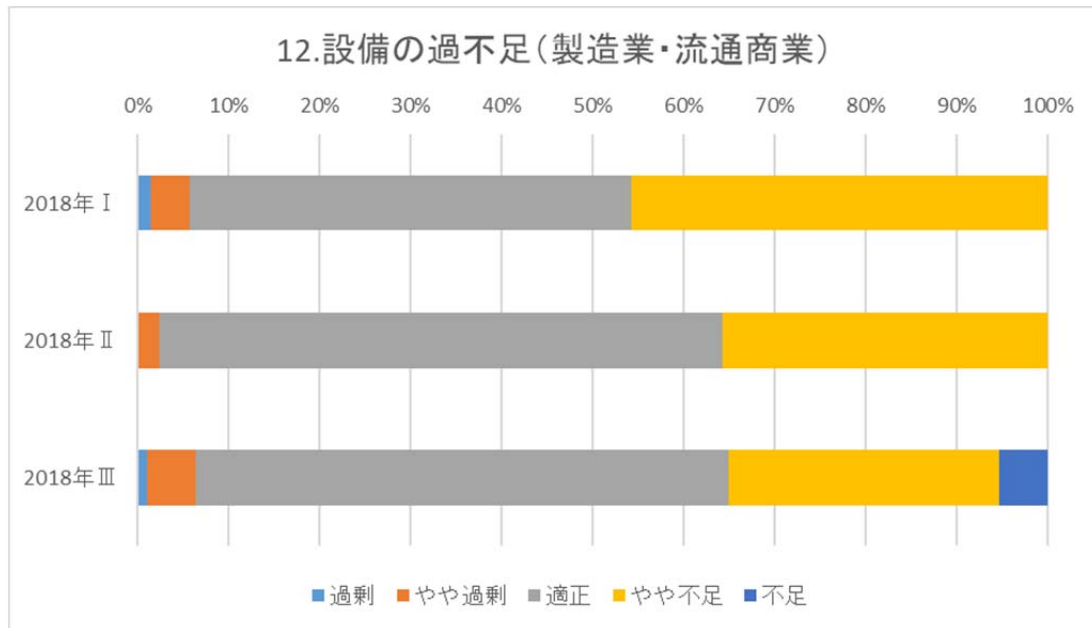
	余裕あり	やや余裕あり	順調	やや窮屈	窮屈
2018年Ⅰ	14.6	22.3	36.4	23.8	2.9
2018年Ⅱ	13.9	16.8	44.7	20.1	4.4
2018年Ⅲ	16.2	14.1	44.8	20.2	4.7



資金繰りの状況

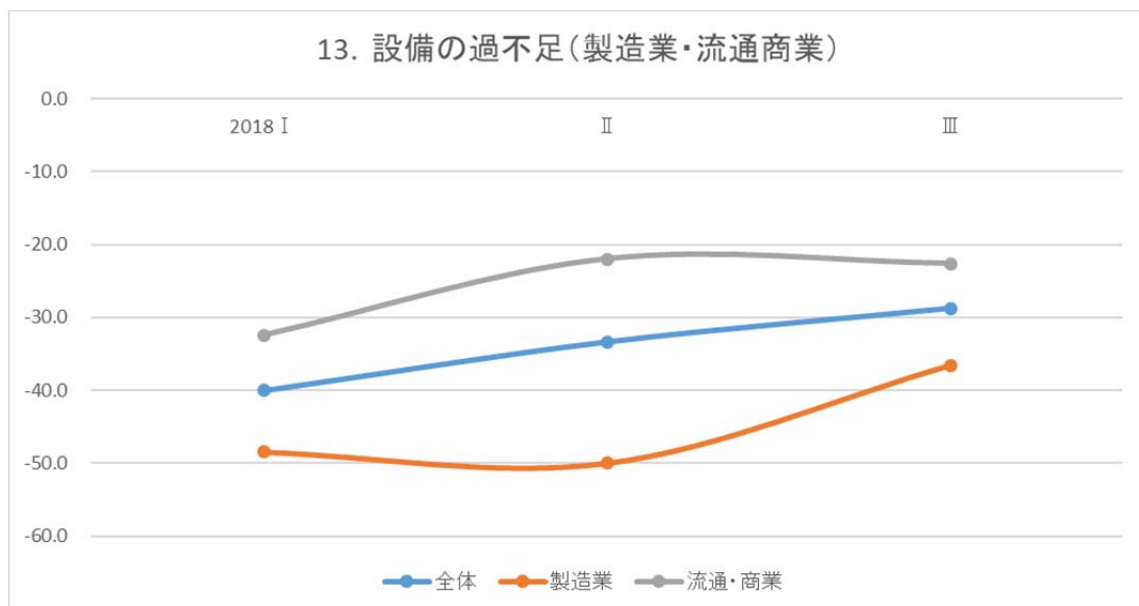
	2018Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
全体	10.2	6.2	5.4
建設業	17.5	23.3	25.4
製造業	18.2	-5.9	0.0
流通・商業	2.7	6.0	1.9
サービス	6.5	0.0	-2.3





設備過不足

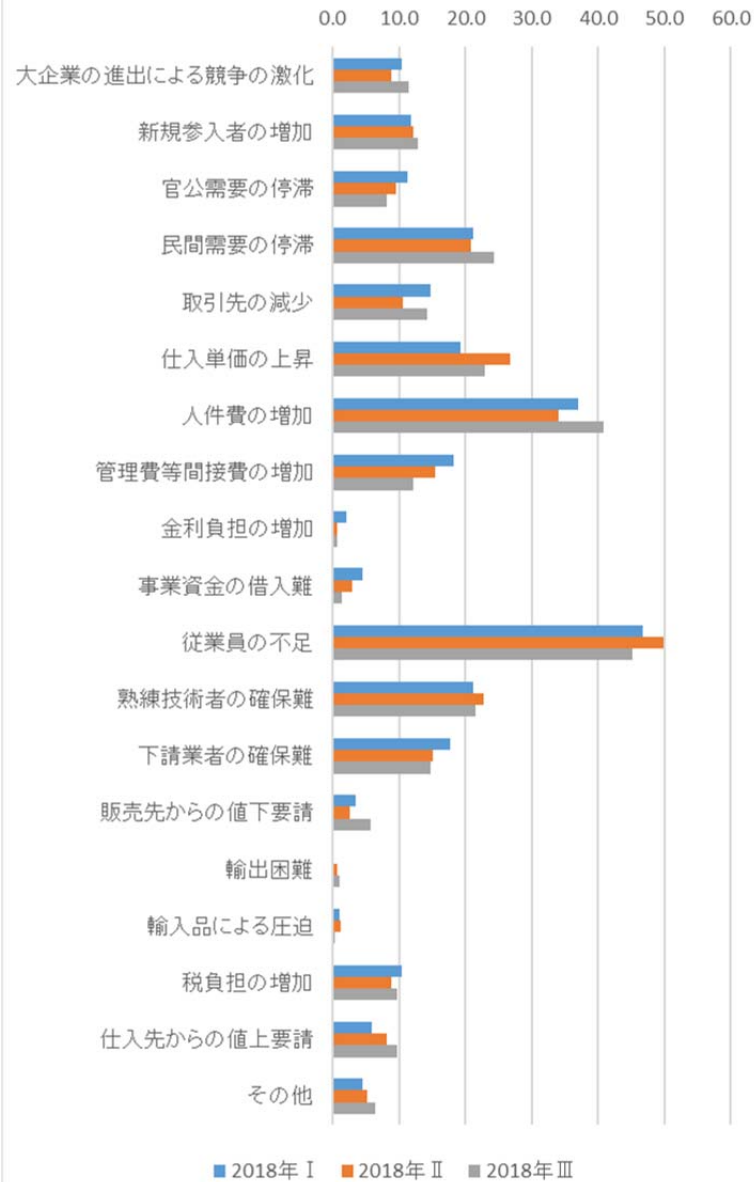
	過剰	やや過剰	適正	やや不足	不足
2018年 I	1.4	4.3	48.6	45.7	0.0
2018年 II	0.0	2.4	61.9	35.7	0.0
2018年 III	1.1	5.3	58.5	29.8	5.3



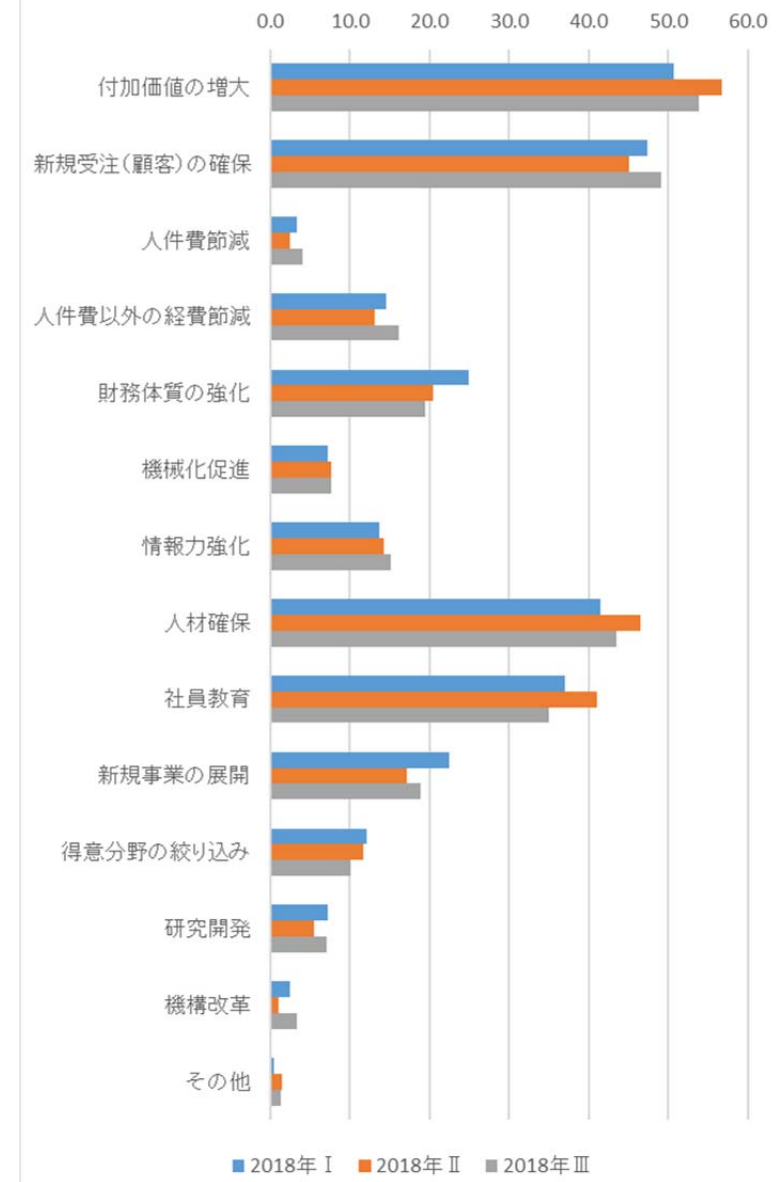
設備過不足

	2018 I	II	III
全体	-40.0	-33.3	-28.7
製造業	-48.5	-50.0	-36.6
流通・商業	-32.4	-22.0	-22.6

## 14. 経営上の問題点



## 15. 次期の経営上の課題



## 【業種別】自由記述（順不同）

### 《建設業》

- ・人材の業界離れ、高齢化による技術の劣化、ハラスメントなどを考慮した技能継承の教育システムの構築、続く事のないオリンピック需要による景気向上感、福利厚生・働き方改革などによる社内改革、解体工事業界業種認定に伴う業界再編など、混沌とした中これからの5年間の舵取りで会社の将来が決まるような気がしています。
- ・多様化する働き手が増える一方でプロパーの正社員の負担が増えること。そして、その社員の収入が増えても税負担も増えて、働き＝成果＝実収入に結びつかない、所謂社会主義的なポロティカルコレクトネス主義が蔓延して、公正な社会や経済の発展を阻害し始めていること。（耳触りのよい正論が蔓延している風潮に不安を感じます。）
- ・少子高齢化による市場の低迷
- ・大工さんが不足

### 《製造業》

- ・6月にグループ内合併をしました。既存取引先は停滞感があるものの、新規取引の兆しも見えてきました。合併したこともあり、情報と将来展望の社内共有がやはりカギだと感じています。
- ・北海道の地震の影響がある 北海道のインフラが問われている
- ・北海道胆振東部地震の早い激甚災指定が望まれる。
- ・縫製工場への就労希望者激減。
- ・8月までは順調に推移していたが、震災により多大なる損害が発生。
- ・幹部教育
- ・地震の影響で未だに小売店の売場が戻っていない。
- ・業界にない新パワー、新商品導入予定。食糧、カイククに進出。予定
- ・北海道全体の不況

### 《流通商業》

- ・胆振東部大震災で全道大停電となり、ファッション関係の衣類の販売は全く売行きストップでした。回復するのに時間がかかりそうです。
- ・地震後以降、今のところ売上は回復した。
- ・9月初めに震災によるブラックアウトがあり、商況が一気に悪化。今、その挽回に取り組んでいる処です。
- ・主力販売先業界の低迷が続いているため、販売商材の軸足を移しております。
- ・燃料の高騰が影響大
- ・弊社の事業収入に広告収入があるが地震による影響で落ち込んでいる。
- ・道内の販売中心から道都圏へ進出

### 《サービス業》

- ・北海道胆振東部地震は相当なダメージを負わされたが、来年以降、復興需要で皮肉ではあるが土木関係を中心

に、それに係わる業種全体が好景気となると思われる。

- ・とにかく人手不足
- ・広告業界：得意先となる大手代理店、印刷業のスキル低下による仕事の質の劣化。（無理なスケジュールによる長時間労働の下位移転、サービス（無料）作業の増大、クライアントとの不確実な交渉による変更作業の増大と価格転嫁不可など）

・飽和状態といわれている業界ですが、独自路線を歩んできた弊社には、今のところ全く影響がございません。

こ

の蓄積を生かし、さらにサービス内容の充実や、新サービスの開発等に注力することにより、経営の安定化維持

を図りたいと考えております。

- ・仕事はあるが、作業員が足りず新規物件に手が出せない。
- ・また最低賃金の上昇により、利益が徐々に減っている。
- ・景気低迷、高齢化により収益源
- ・9月の地震停電による休業に祝日が重なり実働日数が少なく売り上げが減少。更に建物、設備などの破損被害

の

修理費などの出費が経営上マイナスとなっている。

- ・震災と消費税増税が地域経済を疲弊させること変化の警戒と対策強化に腐心しております。
- ・営業活動の強化に努めると共に4月から新たに取り組み始めた事業の体制整備を図っている。
- ・事業所ごとに企業としてのイメージアップ活動、地域貢献活動に努めている。
- ・事業継承の問題、技術力（AZ、IOT）の向上、下請業者の確保難（人がいない）
- ・消費税8%はやはり痛い。これ以上消費税がUPすると更に経営が厳しくなると思われる。
- ・人材確保に費用がかかり過ぎとなかなか応募がない事です
- ・BCPの算定と早期実施
- ・事務所の差別化を図る為、情報収集・発信に力点をおいている。
- ・AI化に伴う機械設備に先行投資し付加価値を高めていく。
- ・公共事業のため削減が厳しい。新規事業がなく業界として大変な状況にある。これだけ自然災害が多くなって

来

ていて社会資本整備が必要と思われる。この数年は東北大震災と福島復興支援業務で助かっているが全体的には公共事業は厳しい状況にある。

- ・経営の全てを現代からの延長線上で考えるのではなく、全てを一旦分解しどうあるべきなのかという理想形を組み立て直すべきなのではないか？